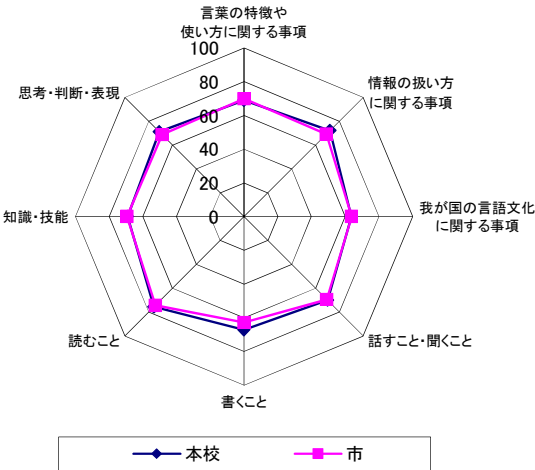


宇都宮市立岡本西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	69.1	69.9	72.3
	情報の扱い方にに関する事項	72.1	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	63.6	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	70.1	69.5	71.5
	書くこと	67.1	62.8	67.1
	読むこと	75.5	74.4	73.7
観点別	知識・技能	69.1	69.4	71.9
	思考・判断・表現	71.1	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

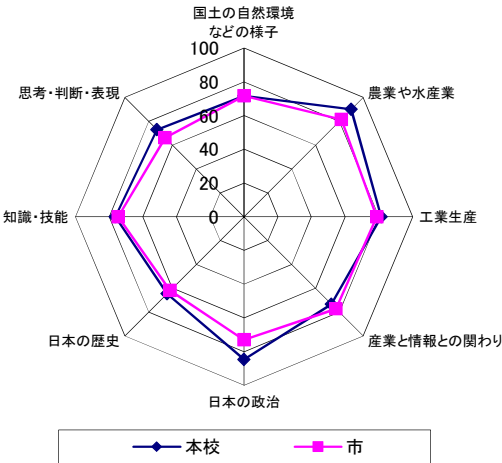
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	平均正答率69.1%と市の平均正答率を0.8ポイント下回った。 ○第6学年に配当されている漢字を読む設問や敬語の使われ方にに関する設問では、市の正答率を全て上回った。 ●第5学年に配当されている漢字を記述する設問や三字の熟語の成り立ちに関する設問では、市の正答率を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・新出漢字のみならず、既習漢字の復習にも取り組み、日常的に使えるよう指導していく。 ・朝の学習等を活用して、熟語などの言葉の学習に取り組む。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率72.1%と市の平均正答率を2.9ポイント上回った。 ○情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する設問や、目的に応じて文章を簡単に書く設問において市の正答率を上回った。	・記述の問題にもしっかりと取り組もうとする姿勢が見られるので、今後も文章のまとまりの役割を意識したり、条件に合わせて記述したりする機会を学習の中で取り入れていく。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率63.6%と市の平均正答率を0.2ポイント下回った。 ●語句の由来に関心をもったり、和語、漢語、外来語について理解したりするのが不十分であったと考えられる。	・和語、漢語の違いについての理解が不十分だったので、教科書の言葉を使って復習する機会を設ける。
話すこと・聞くこと	平均正答率70.1%と市の平均正答率を0.6ポイント上回った。 ○意図に応じて、質問を工夫していることを問う設問では、市の正答率を5.2ポイント上回った。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える記述設問では、市の正答率を6.4ポイント下回った。	・授業の中で、グループ等で話し合う機会を多く設けたり、役割を決めて話し合いをする活動を取り入れたりとしてきたことが成果となって表れたと考えられる。今後も話し手の意図を考えて話を聞く力を身に付けられるよう継続して指導していく。
書くこと	平均正答率67.1%と市の平均正答率を4.3ポイント上回った。 ○指定された条件(文の長さ、段落、内容)を満たして書く設問では、市の正答率を上回った。 ●平均正答率は上回ってはいるものの、書く設問において無回答が7.8ポイント、また文章を書いても指定された条件に合わない回答も多く見られた。	・普段の授業の中で字数や段落の分け方などの条件に合った文章を書く機会を設けることによって、書くことへの苦手意識を軽減していく。今後も条件を意識させながら書く活動を意図的に取り入れていく。
読むこと	平均正答率75.5%と市の平均正答率を1.1ポイント上回った。 ○物語を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる設問では、市の平均正答率を4.4ポイント上回った。 ●登場人物の心情について、描写を基に捉えたり、説明文の叙述を基に内容を捉える設問では、市の平均正答率を下回った。	・宇都宮モデルを活用した授業を普段から丁寧に行ったことが、成果になって表れたと考えられるので、今後も継続していく。 ・物語文や説明文において、文章の中から根拠となる叙述を抑えながら指導していくことで、登場人物の心情や描写を捉えたり、筆者の考えを正しく読み取ったりすることができるようにする。

宇都宮市立岡本西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	71.7	71.6	67.5
	農業や水産業	90.0	81.5	82.1
	工業生産	81.4	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	73.4	77.2	68.2
	日本の政治	84.7	73.1	77.9
	日本の歴史	64.6	62.0	65.8
観点別	知識・技能	76.4	74.6	74.5
	思考・判断・表現	73.0	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

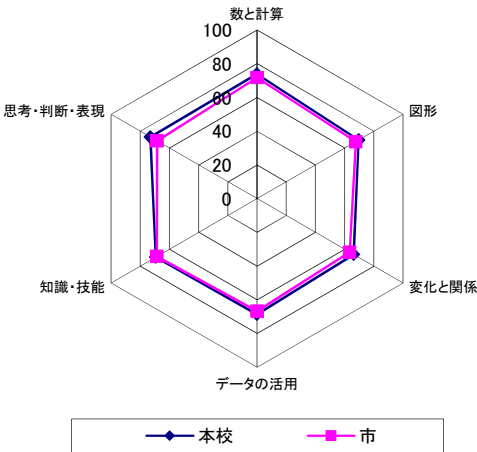
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	平均正答率71.7%と市の平均正答率を0.1ポイント上回っている。 ○資料に着目して、森林の働きを捉え、表現する設問では、正答率が83.1%で市の平均正答率を6ポイント上回っている。 ●日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取る設問では、正答率が41.6%で市の平均正答率を4.5ポイント上回っているが、正答率が低く課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・国土の主な地形の名称を確認するとともに、地図帳や各種の資料を活用し、方位や位置関係、範囲などを理解できるよう指導を工夫する。 ・新聞やニュースなどを活用し、我が国の自然環境に関心をもてるよう指導を工夫する。
農業や水産業	平均正答率90.0%と市の平均正答率を8.5ポイント上回っている。 ○カントリーエレベーターについての理解を問う設問では、正答率が94.8%で市の平均正答率を12.3ポイント上回っている。 ○地産地消の取組について理解を問う設問では、正答率が90.9%で市の平均正答率を8.4ポイント上回り、よく理解していることがうかがえる。	・引き続き、教科書に出てきた資料の読み取り方を確認したり、複数の資料を関連付けて読み取ったりする活動を取り入れる。また、我が国の生産物の種類や分布等が自然条件を生かして営まれていることについて理解できるよう指導を工夫する。 ・自身も消費者の一員であることを自覚できるようにし、身近な生活と結び付けながら、生産だけでなく流通にも目を向けられるよう指導を工夫する。
工業生産	平均正答率81.4%と市の平均正答率を2.7ポイント上回っている。 ○自動車工業の作業工程についての理解を問う設問では、正答率が94.8%で市の平均正答率を2.2ポイント上回っている。 ●キャリアカーと船に着目して、自動車の出荷の工夫を捉え、表現する設問では、正答率が68.8%で市の平均正答率を6.6ポイント上回っているが、正答率が低く課題が見られる。	・引き続き、各種資料や地図帳、地球儀を活用し、我が国の工業生産における特徴について理解できるよう指導を工夫する。 ・教科書に出てきた資料の読み取り方を確認したり、複数の資料を関連付けて読み取ったりする活動を取り入れていく。また、読み取った内容についての特徴や相違点などについて考えたり、話し合ったりすることで、我が国の工業生産について理解を深められるよう指導を工夫する。
産業と情報との関わり	平均正答率73.4%と市の平均正答率を3.8ポイント下回っている。 ●メディアの特徴を理解しているか問う設問では、正答率が84.4%で市の平均正答率を7.3ポイント下回っている。 ●資料に着目してコンビニエンスストアの発注システムについて捉え判断する設問では、正答率が62.3%で市の平均正答率を0.5ポイント下回っている。	・引き続き、新聞やインターネット、雑誌などを活用し、調べたい内容について情報を集める活動を行っていくことで、メディアの特徴に気付けるようにしていく。 ・複数の資料を読み取り、その内容についてノートにまとめたり、話し合ったりすることで、産業と情報との関わりについて理解を深められるようにしていく。
日本の政治	平均正答率84.7%と市の平均正答率を11.6ポイント上回っている。 ○基本的人権の尊重について、生活の中の具体的事例をもとに判断する設問では、正答率が93.5%で市の平均正答率を8.7ポイント上回っている。 ●図に着目して、国民による政治の仕組みを判断する設問では、正答率が68.8%で市の平均正答率を18.8ポイント上回っているが、正答率が低く課題が見られる。	・国会のしくみや働きについて確認するとともに、その中で国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きを理解できるよう指導を工夫する。また、自分にはどのようなことができるのかを考える活動を増やしていく。
日本の歴史	平均正答率64.6%と市の平均正答率を2.6ポイント上回っている。 ○豊臣秀吉の政策に着目して、共通点を判断する設問では、正答率が87.0%で市の平均正答率を12.4%上回っている。 ●奈良時代の資料に着目して、日本の文化に遣唐使が与えた影響を考え、表現する設問では正答率が33.8%で市の平均正答率を1.5ポイント下回っている。	・地図や年表、資料等を活用して詳しく調べる活動を多く取り入れ、歴史上の事象についての分布や経路、出来事の経緯、出来事の様子などを理解できるよう指導を工夫する。 ・調べて考えたことや理解したことを整理してまとめる活動において、歴史的な事象を適切に表現する技能を身に付けられるよう指導していく。

宇都宮市立岡本西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	73.9	71.8	76.2
	図形	69.6	67.7	67.8
	変化と関係	66.2	63.4	62.7
	データの活用	68.6	66.7	61.5
観点別	知識・技能	69.5	68.6	70.7
	思考・判断・表現	73.0	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

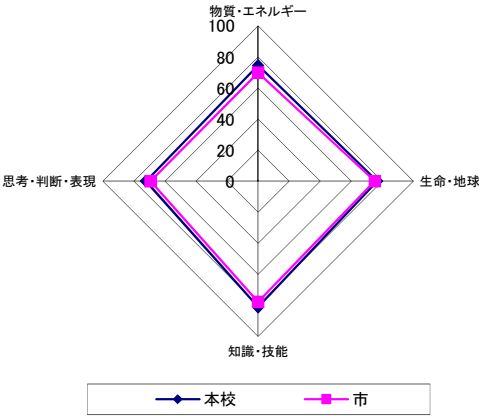
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	この領域の平均正答率は73.9%と、市の平均正答率を2.1ポイント上回っている。 ○図を見て、小数倍の文章設問を解くために乗法の立式をする設問では、平均正答率が81.8%と市の平均を6.9ポイント上回っている。 ○文字を使った式が表す場面を選ぶ設問では、正答率が89.6%と市の平均正答率を9.8ポイント上回っている。 ●分数の除法の文章設問に合った図を選ぶ設問では、平均正答率が57.1%と市の平均正答率を6.5ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算力を高めるために、今後もドリル等で練習を継続して行うとともに、まとめの学習の充実を図り、当該学年で身に付ける基礎基本の習得に努める。 ・授業の中で問題場面を数直線に表すなど、図示して場面を読み取ってから立式する機会を多く設定する。 ・教科書に出てくる数直線に、分かっている数や求める数、何倍かを表す数などを書き込む活動を丁寧に行い、正しく数直線に表し、筋道を立てて考える力を身に付けていく。
図形	この領域の平均正答率は69.6%と、市の平均正答率を1.9ポイント上回っている。 ○高さが図形の外にある三角形の底辺と高さを読み取り、面積を求める式を理解しているかを問う設問では、平均正答率が88.3%と、市の平均正答率を6.0ポイント上回っている。 ●三角柱の展開図を組み立てたときに、重なる辺の長さを問う設問では、平均正答率が74.0ポイントと、市の平均を3.8ポイント下回っている。	・単元の特性に応じて、習熟度別指導・少人数指導・TT指導など指導形態を工夫し、個に応じた指導に努める。 ・図形の学習において、立体の点や面、辺の関係や特徴を考察する学習から、着目する視点を明確にして授業を進めていく。また、デジタル教科書を効果的に使い、立体的な見方ができるように工夫していく。
変化と関係	この領域の平均正答率は66.2%と、市の平均正答率を2.8ポイント上回っている。 ○図の面積を数の割合から求め、どのうさぎ小屋が最も混んでいるかを考察する設問では、平均正答率が84.4%と市の平均を4.4ポイント上回っている。 ●基準量と比較量から割合を求める設問では、平均正答率が49.4%と市の平均正答率を1.1ポイントと少し下回っている。	・公式に当てはめて考えるだけでなく、数直線を用いて立式するような学習を取り入れ、柔軟に問題を解くことができるようにしていく。 ・時速、分速、秒速の換算の復習を行うとともに、面積や体積、長さや時間などの換算の問題も、同様に苦手意識があると考えられるので、学習のまとめの際には、表に単位をまとめることで大きさを比較したり、実際に触れて量の感覚をもったりすることで単位についての定着を図り、実態に応じた復習を行う。
データの活用	この領域の平均正答率は68.6%と、市の平均正答率を1.9ポイント上回っている。 ○欲しいデータを求めるために必要な正しい情報を選ぶ設問では、平均正答率が74.0%と市の平均正答率を11.7ポイント上回っている。 ○帯グラフを読み取って説明する設問では、平均正答率が44.2%と、市の平均正答率を9.7ポイント上回っている。 ●ドットプロットから中央値を読み取る設問では、平均正答率が51.9%と、市の平均正答率を5.9ポイント下回っている。	・帯グラフや円グラフなどの身近なデータの活用だけでなく、ドットプロットなどの様々なデータの正しい見方ができるように、実際の資料を活用する機会を増やしていく。 ・算数科のデータの活用だけでなく、全領域・他教科も通して自分の考えを筋道を立てて説明することを取り入れていく。また、「岡本西小授業スタンダード」の中にも位置付けてある「授業の振り返り」を行うことで、自分の考えを整理して表現する力を継続して付けていく。

宇都宮市立岡本西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	74.5	69.9	67.8
	生命・地球	76.7	75.1	73.7
観点別	知識・技能	81.1	77.8	78.4
	思考・判断・表現	72.3	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	この領域の平均正答率は、74.5%と市の平均正答率を4.9ポイント上回っている。 ○ふりこのきまりの実験を計画する設問では、正答率が84.2%と市の平均正答率を15.2ポイント上回った。また、物のとけ方の食塩を全てとかす方法を問う設問では、正答率が64.5%と市の平均正答率を15.7ポイント上回った。 ●アルミニウムと塩化アルミニウムを区別する方法を推測する設問では、正答率が73.7%と市の平均正答率を4.4ポイント下回った。これは、実験方法や結果を言語化して説明することができなかったためと考えられる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験の計画を児童と共に立てたり、予想を考えたりしながら、授業に取り組んできたことの成果が表れたと考えられる。今後も、児童と共に実験や観察の計画を立てる指導を続けていく。 ・アルミニウムと塩化アルミニウムをそれぞれ薄い塩酸に入れたときの実験の結果を基に、それぞれの性質について考察したことを自分の言葉で表現するよう指導していく。
生命・地球	この領域の平均正答率は、76.7%と市の平均正答率を1.6ポイント上回っている。 ○動物の食べ物のもとが植物に行きつくという知識を問う設問では、正答率が98.7%と市の平均正答率を9.1ポイント上回った。また、植物のつくりとはたらきの実験結果を分析する設問では、正答率が93.4%と市の平均正答率を7.4ポイント上回った。 ●月と太陽の位置関係モデルを用いて月の見え方を推測する設問では、正答率が52.6%と市の平均正答率を3.6ポイント下回った。これは、学習した知識を設問解決に利用することができなかったためと考えられる。	・実験や観察をする前に、既習事項を使って結果を予想したり、予想を児童同士で話し合って妥当性を確かめたりする活動を取り入れることで、根拠をもって推測する力を育てられるように指導していく。 ・単元を通して身に付けた理科の「見方・考え方」を活用できる場面が理解できるよう、単元の終末場面で適応問題を解く等、指導を工夫していく。

宇都宮市立岡本西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるめあてと振り返りの充実	全ての学年で、めあてを提示し、授業の終末でまとめを板書している。「今日の授業を振り返ろう」を参考に振り返りをノートに書く活動を実施している。	1～6年では、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」の項目で肯定的回答率が75%以上であったが、学年により差がある。さらに、市の平均を下回る学年も多かった。また、ほとんどの学年で「学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい。」の項目で、肯定的回答率が80%以上となった。授業の終末で学習の振り返りを行い、分かったことやできたこと、次にできるようにしたいことを書く活動を行うことで意識が高まっていると考えられる。
豊かに表現する児童の育成	児童同士の関わり合いを大切にした対話のある活動の設定の工夫に取り組んでいる。児童が思考し、自分の考えを書いたり説明したりする力を育てるための指導を行っている。	1～6年では、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の項目で、ほとんどの学年で肯定的回答率が80%を上回った。3～6年では、「自分の考えを根拠を挙げながら話すことができる。」の項目で、肯定的回答率が6割程度であり、学年によって差が見られる。6年では、どの教科でも記述式の設問で正答率が市の平均より高く、無回答率は低い。
家庭学習の定着	地域学校園で共通の家庭学習の時間の目安と家庭学習の手引きを作成し、自主学習ノートと記録カードを用いて家庭学習の取組を進めている。定着月間・強調月間には家庭と連携し生活習慣の振り返りを行っている。	1～6年では、「宿題はきちんとやり、期限までに提出している。」の項目で、ほとんどの学年で、肯定的回答率が市の平均を同程度か上回った。「普段、学校の授業以外に、1日どれくらい学習していますか」の項目では、地域学校園で設定した家庭学習の目安の時間(学年×10+10分、高学年は1時間)より長い児童が多くの学年で上回ったが、1・3年では、市の平均を下回っている。一方で、3～6年生では、「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。」の項目で、市の平均を下回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

・4～6年生は、国・県の調査において、学習を振り返る活動について成果が見られ、めあてを示すことについて課題が見られた。「岡本西小授業スタンダード」に基づいた授業の展開を継続し、児童が学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができるようにする。前時の振り返りを次時のめあてに生かすなど、主体的な学びを推進する。

・4～6年生は、国・県・市の調査ともに正答率が市の平均を上回る項目が多く見られた。6年生の国語のA話すこと・聞くことでは、話し合いの中で自分の立場を明確にし考えをまとめる問題、算数の変化と関係及びデータの活用では、比例の関係を用いて未知の数量を求める問題と、表の全体と部分の関係に着目して数を求める問題で全国の平均正答率を下回った。今後は、国語では主張の理由や根拠を挙げながら話したり書いたりする活動、算数では筋道を立てて説明する活動を継続して行う。学習形態の工夫にとどまらず、発問や問いを工夫することにより思考が深まる学習活動を展開する。「思考の言語化」を本校の学習指導に関する課題とし、日々の授業で指導していく。

・地域学校園での共通実践によって、低学年のうちから時間を確保して宿題など家庭での学習習慣が身に付いている。「自主学習のヒント集」やAIDリルを活用し、自分で計画を立てて必要な学習を選択して主体的に学習に取り組むことができるようにしていく。